

平成三十年度事業の概要

平成三十年度「肥後医育塾」年間テーマ「私たちの健康みらい」を開催

常任理事（事業担当） 遠藤 文夫
県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、（公財）肥後医育振興会、（一財）化学及血清療法研究所及び熊本日日新聞社の主催で、平成三十年度も市民公開セミナー「肥後医育塾」を開催することになりました。「私たちの健康みらい」を年間テーマとしました。

日本人の平均寿命は女性八七・一四歳、男性八〇・九八歳（二〇一六年）となり、我が国は世界二位の長寿国となりました。長い人生をいつまでも健康に明るく暮らすために、今後さらに医療技術の進歩に大きな期待が寄せられることでしょう。そこで、今年度は「私たちの健康みらい」をテーマに、年間三回のセミナー（第六十四回～第六十六回）を開催します。それぞれ「認知症」「ワクチン」「百寿社会」を取り上げます。

第六十四回は、七月十六日（月、祝）にホテル熊本テルサにおいて、「治す認知症」と題して、広く認知症を引き起こす疾患に焦点を当て、いかに認知症を理

解し治療に導くか、その最前線をご紹介します。

第六十五回は、九月三十日（日）にホテル熊本テルサにおいて、「ワクチンのこと知りましょう（仮題）」と題して、親が責任を負う小児科領域、中学生への接種が議論になっているHPVワクチン、そして肺炎ワクチン（Hib vaccine）を中心に解説します。

第六十六回は、一月十二日（土）にホテル熊本テルサにおいて、「私たちの未来は「百寿社会」？」と題して、百年を超えるわれわれの人生に、「未来」はあるのでしょうか？我々ひとりひとりが「幸福」に向かうことができる、寛容と調和をもった「百寿社会」とはどういうものか、専門家を交えて皆さんと考えることとします。

なお、いずれのセミナーも開催後約一月後に熊本日日新聞紙面に内容を掲載する予定です。また、本財団ホームページにも掲載いたします。

総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

本年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」（タブロイド判十六頁三十五万部発行）の第一土曜日分の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を担当いたします。昨年度と同様にメインの記事として「元気の処方箋」

（最新の医学医療記事）を毎月掲載いたします。また、「子育て応援クリニック」（小児科関連の医学医療記事）（十面）も、読者からの希望が多いとのこと、毎号の掲載といたします。「慈愛の心・医心伝心」（女性医療人によるリーエッセイ）（十二面）はこれまで通り八回（五、六、八、九、十一、十二、二、三月）掲載いたします。「四季の風」（季節の新作俳句）は、これまで同様四回（四、七、十、一月）掲載いたします。

本年度も、「あれんじ」に掲載後全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載し、どなたでも自由に読めるようにすることとしております。

「第九回熊本県医療人育成総合会議」の開催予定

常任理事（事業担当） 遠藤 文夫
テーマ：「医療人育成における認知症教育のあり方」

日本は二〇〇七年に超高齢社会（人口の二一％以上が六十五歳以上）に突入し二〇一七年現在の高齢化率は二七％に至っています。そして医療を必要とする

人たちの半数以上は高齢者と推測されます。認知症患者数も急増しており、二〇一二年に四六五万人（高齢者人口の七分の一）だったものが、二〇二五年には七〇〇万人（同五分の一）まで上昇すると推計されています。

この状況下では、一般的な臨床の現場において認知症の患者に遭遇することは普通にみられることです。したがって、医療分野においては対象患者が認知症を合併している可能性をつねに考える必要があります。これからの日本の医療人には認知症についての知識と認知症合併患者への適切な対応能力が不可欠であり、医療人を育成する教育の現場においても専門家の養成が必要とされています。

今回の総合会議では、熊本の医療人育成機関において今後のあるべき教育体制について議論し、教育体制の整備に必要な専門家の育成などについても協議することとしております。

実施日時：平成三十年十一月十七日（土）午後一時三十分から五時まで

実施内容： 熊本大学大学院生命科学研究所 会 熊本大学大学院生命科学研究所

教授 熊本大学大学院生命科学研究所 熊本大学大学院生命科学研究所 准教授 熊本大学大学院生命科学研究所 古川 昇氏

演題及び演者については、選考中です。（五～六名）